

第55回揖斐郡消防操法大会

〈小型ポンプの部・ポンプ車の部 優勝独占!〉

6月20日(日)、池田公園グラウンドで、時折雨の降る中、第55回揖斐郡消防操法大会が開催されました。大会には揖斐郡内の消防団から、小型ポンプの部は12チーム、ポンプ車の部は10チームが出場し、日頃の訓練の成果を競い合いました。大会の結果は次のとおりです。

《小型ポンプの部》

優勝 揖斐川町消防団 小島分団
準優勝 揖斐川町消防団 大深分団
3位 揖斐川町消防団 脛永分団

《ポンプ車の部》

優勝 揖斐川町消防団 揖斐分団
準優勝 大野町消防団
3位 揖斐川町消防団 小島分団



▲高レベルな操法が披露されました。



▲ポンプ車の部優勝 揖斐分団



▲小型ポンプの部優勝 小島分団

また、8月1日(日)には、揖斐川健康広場ビッグランドで、「消防感謝祭」第59回岐阜県消防操法大会が開催されます。揖斐郡を代表して、揖斐川町の消防団も出場します。大会でのご活躍を期待しています。

春日地区土砂災害防災訓練

〈災害に強いまちづくりを目指して〉



▲揖斐川町災害救援ボランティアによる土砂除去訓練の様子

土砂災害が発生したことを想定した防災訓練が6月27日(日)、春日地区で行われました。

訓練では、春日地区の住民の皆さんの参加により、岐阜県や自衛隊などの協力を得て、土砂災害発生時に被害を最小限に食い止めるための避難訓練や救助訓練などが行われました。

訓練は的確、迅速に行われ、訓練後の防災講演会では、被害の規模の把握や迅速な避難活動が重要であることを確認しました。参加者の皆さんは、避難経路の確認や非常持ち出し品の準備、防災情報の収集のあり方などについて学びました。



▲レスキュー隊による救助訓練の様子



※テントおよび音響機材は、宝くじの助成金を受けて整備しました。



▲加茂自治会の防災倉庫と仮設トイレ(胥永)

近年、安全・安心なまちづくりを目指して、全国的に災害に対する取り組みが強化されています。

災害時は、まず初めに自らの身を守り(自助)、それから互いに協力し地域を守る(共助)ことが大切です。

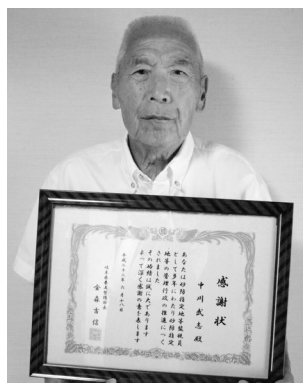
町では、地域として取り組んだ「共助」の防災対策の先進事例として、胥永地区・加茂自治会の防災倉庫があります。

加茂自治会では、人命・財産を守るために地域の皆さんが取り組み、防災倉庫と仮設トイレを設置しました。

「自分たちの地域は、自分たちで守る」防災に対する意識の高まりは、災害に強いまちづくりにつながります。

胥永・加茂自治会防災倉庫

「地域で守る共助の意識」



▲中川武志さん



▲奥田豊歳さん

6月18日(金) 揖斐土木事務所、砂防指定地等監視員の永年勤務に対する感謝状の授与式が行われました。

感謝状を受けられたのは、奥田豊歳さん(坂内広瀬)と中川武志さん(東横山)です。

奥田さんは33年間、中川さんは13年間の長きに亘り、急峻かつ危険を伴う砂防指定地等において不法行為、危険箇所の見回りなどの監視業務を行い、砂防指定地等管理行政に多大な貢献をされた功績に対して感謝状が授与されました。

砂防指定地等監視員永年勤務者に感謝状が授与されました

6月12日(土)、揖斐川河川敷会場および揖斐川町中央公民館を中心に「第30回全国豊かな海づくり大会」サテライトいびがわ会場」が開催されました。

このイベントは、次世代を担う子どもたちが主役となり、森や川の美しい自然環境を保つことが、豊かな海づくりへとつながることを認識し、私たちの身近な水環境について考え、行動する機会となりました。

揖斐川河川敷会場では、「揖斐川流域クリーン大作戦」として、河川敷のゴミ拾いを行い、川と海を回遊する「アユ」の放流が行われました。

揖斐川町中央公民館会場では、町内にある9つの小学校が、環境をテーマとして取り組んだ学習成果の発表会などが行われ、美しい川を守ることに豊かな海づくりにつながることを確認しました。

フィナーレは、町内6つの中学校3年生全員で「走る川」を合唱しました。

この曲は、揖斐川が力強く流れる様子をイメージして作られたもので、中学生が合唱する曲として受け継がれています。

「森・川・海」のつながりも次世代へ引き継ぎ、美しい自然環境の保全を継続することが私たちの使命です。

第30回全国豊かな海づくり大会「サテライトいびがわ会場」開催

「子どもたちとつながり、森と水の里づくり」



▲「走る川」の合唱



▲学習成果発表会



▲アユの放流

谷汲農園でじゃがいも収穫祭

「遊休農地を活用して」

谷汲振興事務所東側に位置する谷汲農園（谷汲徳積）で、6月5日（土）、じゃがいもの収穫祭が行われました。

この農園は、遊休農地の利活用を目的として、栽培管理を地元の農家の皆さんにお手伝いいただき、オーナー農園事業を実施しています。

今年も、じゃがいもの出来栄は上々で、かごや袋いっぱい収穫する姿が見受けられました。

また、農園で収穫されたじゃがいもでじゃがバターやフライドポテトが振る舞われ、参加された皆さんに好評でした。



▲収穫を楽しむオーナーの皆さん

谷汲ゆり園ゆりまつり開催

「ゆりと郷土芸能の競演」

6月13日（日）、20日（日）の2日間、谷汲ゆり園で、ゆりまつりが開催されました。会場内は開花の見頃を迎えたスカシゆりに囲まれ、ヒノキの木立の中での谷汲踊やいびがわMAXによる「よさこい」などが披露されました。

ゆり園は、谷汲大洞地区の皆さんが力をあわせて管理しており、平成8年の開園以来、少しずつ整備が進み、現在では3ヘクタールの園内全体に30万球のゆりが植えられ、毎年訪れる人を楽しませています。



▲いびがわMAXによる「よさこい」

▼園内の様子



夜叉ヶ池山開き

「伝説の池を目指して登山」

揖斐川町坂内と福井県境にある夜叉ヶ池（標高約1100メートル）が6月6日（日）、山開きされました。夜叉ヶ池登山口で、安全祈願が行われると、待ちかねた多くの登山客が夜叉ヶ池を目指し、山道を一步步踏みしめながら登りました。この日は爽やかな陽気で、残雪のある雄大な景色やブナの新緑が、登山客を迎えました。

登山道から夜叉ヶ池までは、片道3キロメートルのコースですが、登山される際には、体調を十分整え自分に合った登山をお願いします。



▲登山者の安全を祈願する「山開き」の様子

徳山ダム号が乗車5000人を達成！

平成20年4月から運行が始まった「徳山ダム号」が3年目を迎え、6月20日（日）に、通算150便で乗車人数5000人を迎えました。

記念の5000人目となったのは、三重県桑名市からお越しの堀田さんで、「一度は徳山ダムを見に行きたいと思い、ようやく本日訪れることができました。しかも、記念すべき5000人目になって、びっくりしました。」と話されました。

7月～9月にかけて運行される徳山ダム号は、ダム堤体内部の見学ができる「ダム探検コース」が設定され、楽しみが満載です。



▲乗車5,000人記念セレモニー（養老鉄道揖斐駅前）



▲清掃奉仕活動をする生徒たち（養老鉄道損斐駅前）

6月23日（水）県立損斐特別支援学校（谷汲深坂）の生徒14人が、登下校で利用する損斐川町三輪の本損斐バス停と養老鉄道損斐駅で、清掃奉仕活動を行いました。

「マナーズ・スピリットリーダーズ」と呼ばれるこの活動は、清掃活動を通して地域に貢献し、奉仕の心を持つことを目的として、地域社会のマナー向上を目指しています。

参加した生徒は、「思っていたよりゴミがあつてびっくりしました。これからは、気がついたら拾うようにしたい」と話していました。

MSリーダーズ清掃活動

～マナー向上で地域を美しく～



▲じゃがいもの収穫をする生徒たち

県立損斐特別支援学校（谷汲深坂）は、昨年4月の開校当初から、作業学習として、じゃがいも、里芋、さつまいもなどの農作物を育てています。

これらの農作物は、地産地消、食育を目的として、損斐川町学校給食センターで順次、購入することになりました。

6月25日（金）は、高等部の農園芸班7人が、農作業の指導を行なっている、「NPO法人ふるさと谷汲」の方々と一緒に初出荷となるじゃがいもを収穫しました。

収穫を終えて生徒たちは、「農作業は大変ですが、給食になるのが楽しみです」と話しました。

収穫したじゃがいもを給食に

～損斐特別支援学校高等部～



▲「みかんでスタンプ」に取り組む子どもたち

6月26日（土）、損斐川町中央公民館で、「科学の祭典岐阜大会in損斐川」が開催され、約600人の子どもたちが実験や工作を楽しみ、科学の不思議を体験しました。

5年目となる今年は、岐阜聖徳学園大学教育学部の学生65人がスタッフとして15の実験ブースを運営しました。

スライムや風船ロケット、万華鏡、割れないシャボン玉など、色々な実験が行われ、参加した子どもたちは、興味津々で科学の楽しさを満喫していました。

科学の祭典岐阜大会in損斐川

～科学の不思議がいっぱい～



▲塗装補修完了!!



▲塗装補修作業の様子

7月1日（木）、損斐川町水道組合員の15社15人が老朽化した消火栓の塗装を補修する塗装補修奉仕活動を行いました。

このボランティア活動は、今年度から始動し、この日は、損斐地区で約60か所の塗装補修を行いました。

今後毎年活動は継続され、5年間で損斐川町全域の老朽化した消火栓の塗装補修を完了する予定です。

消火栓塗装補修ボランティア

～損斐川町水道組合～